



環境経営レポート

2024 年度 活動報告 (2024/1~2024/12)



株式会社 東興電機製作所

2025 年 3 月 1 日



目次

1. はじめに.....	3
2. 組織の概要.....	4
3. 対象範囲・対象期間.....	5
4. 環境経営方針.....	6
5. 実施体制.....	7
6. 環境経営目標および実績.....	9
7. 環境経営活動計画・取組結果と評価.....	13
8. 活動内容の紹介.....	23
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無.....	26
10. 外部からの苦情などの受付状況及び対応結果.....	27
11. 代表者による全体評価と見直しの結果.....	28

1. はじめに

株式会社東興電機製作所は 1963 年に創業し、製造部門（医療機器 精密機器 機械加工/組立、超精密微細配線加工）と、IT に関する様々なサービスを提供する IT サービス部（「TOKO DS」）から構成されています。

当社のエコ活動は、2008 年新年、「今年は環境問題に社員全員が関心を持ち、会社として何ができるか考え、具体的に行動していこう」という社長の挨拶から始まりました。同年 6 月、取引先との会合で「エコアクション 21」の存在を知り、認証取得を目指して取り組みを開始。翌 2009 年 4 月には認証を取得し、2019 年には、認証・登録 10 年継続企業として表彰されています。

現在も、エコアクション 21 のガイドラインに則り、省エネ・省資源・廃棄物削減などの環境保全活動に継続して取り組んでいます。



2. 組織の概要

事業所名及び代表者氏名

株式会社 東興電機製作所 取締役社長 土橋 一雄

資本金

1,000 万円

設立

1963 年 6 月

事業所所在地

三鷹本社：〒180-0006 東京都武蔵野市中町 1-9-5 第一中央ビル 4 階

青梅工場：〒198-0022 東京都青梅市藤橋 3-3-5

柏事業所：〒277-0803 千葉県柏市小青田 5-12

EMS 責任者氏名及び連絡先

川本 純子

TEL：0422 55 5055(代表)/FAX：0422 55 5051/メール：salesteam@tokods.com

事業内容

三鷹本社（IT サービス部）：

Web サイト/IT 機器検証、取扱説明書・マニュアル制作、技術翻訳

青梅工場（製造部）：

超精密微細配線加工、医療機器 精密機器 機械加工/組立、試作製作

柏事業所（製造部）：

超精密微細配線加工、医療機器組立、試作製作

規模

従業員数：53 名（2024 年 12 月時点）

敷地面積：三鷹本社：86.1 m²/青梅工場：1495.96 m²/柏事業所：198.72 m²

取得認証

ISO9001（精密電子機器と電気部品の製造および修理）、ISO13485（超音波診断用プローブの製造）、ETL マーク(北米)、医療機器製造業、他





3. 対象範囲・対象期間

認証・登録の対象範囲：全社（三鷹本社、青梅工場、柏事業所）

対象期間：2024年1月1日～2024年12月31日

4. 環境経営方針

株式会社東興電機製作所 環境経営方針

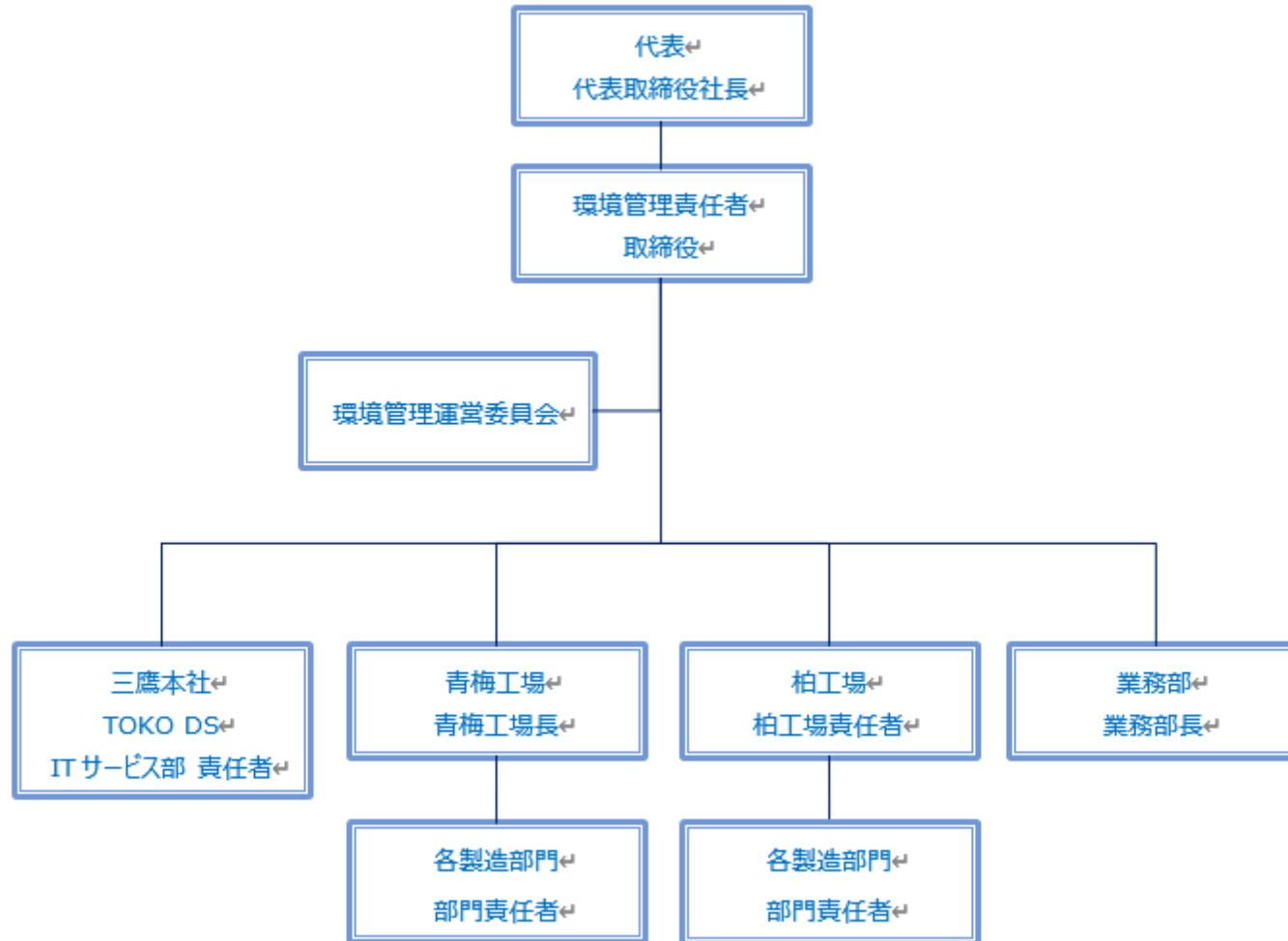
株式会社東興電機製作所は、医療機器の製造、放射線測定装置の製造およびITに関する様々なサービスを提供している、環境負荷の低い事業所です。次世代に豊かな地球環境を引き継ぐため、社員ひとりひとりが楽しみながら、環境保全活動の取り組みを継続します。

- (1) 製造工程、ITサービス業務で使用する電気消費量の削減に取り組みます。
- (2) 社員全員が会社の環境負荷を把握し、省エネルギー・廃棄物の削減に努めます。
- (3) 製品不良率の削減、早期納品、およびIT技術の活用による業務効率化により、環境負荷の低減に取り組みます。
- (4) 社員全員が環境保全に対する意識向上に努めます。
- (5) 社外に環境保全活動の重要性を発信していきます。
- (6) 環境に関する法規制や条例および当社が合意するその他の要求事項を遵守します。

令和6年4月10日

株式会社東興電機製作所
取締役社長 土橋一雄

5. 実施体制



役割、責任及び権限

* 「EMS」 = 環境マネジメントシステム、「EA21」 = 「エコアクション 21」

代表	1	代表者
	2	環境方針の作成、見直しを行う
	3	環境方針を承認、周知する
	4	資源（人・もの・金）の決定権を有する
	5	環境管理体制の整備を行う
	6	定期的に EA21 全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
	7	環境管理責任者、環境運営委員等を任命する
環境管理 責任者	1	EA21 ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し、実績の向上をはかる
	2	上記 1 の結果を代表者へ報告する
	3	EA21 文書類の承認、決済を行う
	4	環境委員会の委員長として環境保全活動全般の舵取り、実行推進を行う
	5	資源（人・もの・金）の承認を行う
	6	環境委員、部門代表を指名する
	7	社外からの苦情などの環境管理情報を受理、記録する
	8	その他、EMS の確立、実施、維持及び管理に関し必要な業務を行う
環境運営 委員会	1	EMS の運用管理に必要な人的資源、技能等の準備を行う
	2	環境管理責任者を推薦し、EMS の確立、実施、維持等に関する業務及び、EMS の実績に関し本会議に報告する業務を行う
	3	環境目標の設定及び環境活動計画の作成、見直しを行う
	4	工場長は各拠点の環境目標の設定及び環境活動計画の作成、見直しを行う
	5	環境経営の手順書の作成及び改訂を行う
	6	環境への負荷の自己チェックを実施する
	7	環境への取り組みの自己チェックを実施する
	8	工場長は各拠点の環境へ負荷及び取組の自己チェックを実施する
	9	EMS の見直しを行う
	10	環境管理委員会の円滑な運営のための各部門内の連絡・調整をする

6. 環境経営目標および実績

(株)東興電機製作所 2024年度 環境経営目標および実績

計画作成日：2024年 2月 2日、実績記録日：2025年 2月14日
作成・記録者：馬場 桂（環境管理運営委員会）、承認者：川本 純子（環境管理責任者）

■2024年の目標

- 1) 環境負荷の低減 - 省エネルギーの推進
基準年（2023年）実績に対し、現状維持
- 2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進
・廃棄物の排出量：基準年（2023年）実績に対し、現状維持
・廃棄物等の分別区分、分別の実施方式、保管場所の明確化・表示方法、マニフェストの管理
- 3) 水使用量の削減
基準年（2023年）実績に対し、現状維持
- 4) 化学物質の適正管理
適性管理、監視強化の推進
- 5) 環境に関する取組の向上
現場の意識向上
- 6) 製品およびサービスへの環境配慮
業務の効率化（不良の削減、IT技術の活用）および顧客要求に従った環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止の徹底

(参考) 中長期目標：2024年-2026年

対象項目	2023年度実績値	中長期目標		
		2024年度	2025年度	2026年度
1) 環境負荷の低減・省エネルギーの推進				
CO2排出量の削減	73.65 kg-CO2/人	基準年(2023年)実績に対し、 現状維持	基準年(2024年)実績に対し、 現状維持	基準年(2025年)実績に対し、 現状維持
CO2排出量の削減 -電力使用量の削減	150.46 kWh/人	基準年(2023年)実績に対し、 現状維持	基準年(2024年)実績に対し、 現状維持	基準年(2025年)実績に対し、 現状維持
CO2排出量の削減 -ガソリン使用量の削減	3.40 L/人	基準年(2023年)実績に対し、 現状維持	基準年(2024年)実績に対し、 現状維持	基準年(2025年)実績に対し、 現状維持
CO2排出量の削減 -軽油使用量の削減	3.76 L/人	基準年(2023年)実績に対し、 現状維持	基準年(2024年)実績に対し、 現状維持	基準年(2025年)実績に対し、 現状維持
2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進				
-廃棄物の排出量の削減	5.72 kg/人	基準年(2023年)実績に対し、 現状維持	基準年(2024年)実績に対し、 現状維持	基準年(2025年)実績に対し、 現状維持
-廃棄物の適正管理		<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等の分別の徹底 ・分別の実施方式、保管場所の明確化 ・マニフェストの管理徹底 		
対象項目	2023年度実績値	中長期目標		
		2024年	2025年度	2026年度
3) 水使用量の削減				
-上水使用量の削減 ※三鷹本社は除く	0.69 m3/人	基準年(2023年)実績に対し、 現状維持	基準年(2024年)実績に対し、 現状維持	基準年(2025年)実績に対し、 現状維持
4) 化学物質の適正管理				
-化学物質の適正管理		<ul style="list-style-type: none"> ・管理対象化学物質の使用量、保管量管理の継続 ・顧客からの環境負荷物質調査依頼への対応 ・新しい化学物質使用の監視強化 		
5) 製品およびサービスへの環境配慮				
-不良の削減 -IT技術の活用 -環境負荷物質の製品への含有 の削減、禁止		業務の効率化および顧客要求に従った環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・不良の削減 <ul style="list-style-type: none"> -不良出荷 部門 0件 -破損弁償 各製造部門 0件 ・IT技術の活用 <ul style="list-style-type: none"> -生産性の向上(間接部門) 帳票システム化による属人化の解消 		

■2024 年の実績

CO2 の総排出量 (kg-CO2) は以下の通りです。

2022 年度	2023 年度	2024 年度
36,550.12 kg-CO2	37,046.23 kg-CO2	33,788.44 kg-CO2

※「従業員数」は年間平均 (切り上げ)

対象項目	目標	(原単位実績)			実績 (原単位実績)
		2022年度	2023年度	2024年度目標値	2024年度
		従業員数：41人	従業員数：42人	従業員数：49人	従業員数：49人
1) 環境負荷の低減 - 省エネルギーの推進					
CO2排出量の削減	基準年(2022年)実績に対し、現状維持	73.56 kg-CO2/人	73.65 kg-CO2/人	→ 73.65 kg-CO2/人	58.06 kg-CO2/人
CO2排出量の削減 - 電力使用量の削減	基準年(2022年)実績に対し、現状維持	152.31 kWh/人	150.46 kWh/人	→ 150.46 kWh/人	128.28 kWh/人
CO2排出量の削減 - ガソリン使用量の削減	基準年(2022年)実績に対し、現状維持	3.29 L/人	3.40 L/人	→ 3.40 L/人	1.79 L/人
CO2排出量の削減 - 軽油使用量の削減	基準年(2022年)実績に対し、現状維持	4.66 L/人	3.76 L/人	→ 3.76 L/人	2.79 L/人
2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進					
廃棄物の排出量の削減 廃棄物の適正管理	廃棄物の排出量：基準年(2022年)実績に対し、現状維持 廃棄物等の分別区分、分別の実施方式、保管場所の明確化・表示方法、マニフェストの管理	12.65 kg/人	5.72 kg/人	5.72 kg/人	5.52 kg/人
3) 水使用量の削減					
上水使用量の削減 ※三鷹本社は除く	基準年(2022年)実績に対し、現状維持	0.60 m ³ /人	0.69 m ³ /人	→ 0.69 m ³ /人	0.52 m ³ /人

対象項目	目標	実績
4) 化学物質の適正管理		
化学物質の適正管理	適性管理、監視強化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・管理対象化学物質の使用量、保管量管理の継続 ・環境負荷物質調査依頼への対応 ・新しい化学物質使用の監視強化
5) 環境に関する取組の向上		
現場の意識向上	各事業所ごとの目標を設定 各事業所のエネルギー使用実績の周知	各事業所にて目標を設定し、評価を行った 掲示物を作成、全体ミーティングでの周知を行った
6) 製品およびサービスへの環境配慮		
不良の削減 IT技術の活用 環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止	業務の効率化（不良の削減、IT技術の活用）および顧客要求に従った環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止の徹底	不良記録の徹底、再発防止処置の徹底 間接部門の作業効率化 帳票システム化による属人化の解消 環境負荷物質の製品含有の削減、禁止の徹底

* 保管：環境管理運営委員会

排出係数：電力（東京電力エネルギーパートナー）：0.457 kg-CO₂/kWh

電力（ミツウロコグリーンエネルギー）：0.352 kg-CO₂/kWh

ガソリン：0.0671kg-CO₂/MJ

軽油：0.0687kg-CO₂/MJ

7. 環境経営活動計画・取組結果と評価

(株)東興電機製作所 2024年度 環境経営活動計画・取組結果と評価

計画作成日：2024年 1月 29日、最終更新日：2025年 2月7日
作成・記録者：馬場 桂（環境管理運営委員会）、承認者：川本 純子（環境管理責任者）

■取組内容

1. 行動目標（定性目標）

対象項目	取組内容	取組内容詳細	取組の実績（評価○/△/×を記入）		実施担当
			1-6月	7-12月	
1) 環境負荷の低減 - 省エネルギーの推進					
CO2排出量の削減 - 電力使用量の削減	不要照明の消灯	・各部所において、不要箇所の頻繁な消灯(昼休みは消灯)	○	○	全従業員
	周辺機器の節電	・長時間不使用時にはPCをスタンバイもしくは電源OFF	○	○	
		・暖房使座は、夏期は電源を落とし使用後は蓋を閉める	○	○	
		・電気ポットの長時間の保温を避ける	○	○	
室内温度調節の徹底（エアコン）	・冷房温度28°C±1°C、暖房温度20°C±1°Cに設定、クールビズ、ウォームビズを実行	・冷房温度28°C±1°C、暖房温度20°C±1°Cに設定、クールビズ、ウォームビズを実行	△	△	
		・エアコンのフィルター清掃及び点検の実施	○	○	
		・遮光スクリーン、ブラインド及び窓の開閉で室温調整	○	○	
CO2排出量の削減 - ガソリン使用量の削減 - 軽油使用量の削減	車両の点検整備の徹底	・点検整備を適宜実施し、燃費を向上させる	○	○	車両使用者
	エコドライブの実践	・エコ運転、アイドリングストップの励行	○		
		・燃費効率の良い配送経路の検討	○	○	
		・交通法規の順守、過積載の禁止	○	○	
適切な資源の選択、設定	・低燃費車（エコカー）の導入 ・公共交通機関での移動を心がける	・低燃費車（エコカー）の導入	—	—	
		・公共交通機関での移動を心がける	○	○	

対象項目	取組内容	取組内容詳細	取組の実績		実施担当
			1-6月	7-12月	
2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進					
廃棄物の排出量の削減 廃棄物の適正管理	分別の徹底	・ゴミの分別を徹底する	○	○	全従業員
	3R (リデュース、リユース、リサイクル)の徹底	・使用済みインクカートリッジは業者指定のリサイクル店に持っていく	○	○	
		・部材の端材等の有効利用	○	○	
	紙資源の削減 (ペーパーレス)	・社内文書の電子化 (電子メールの活用)	○	○	
・両面印刷や集約印刷、省インクモードでの印刷 ・社内文書の裏紙利用		○ ○	○ ○		
3) 水使用量の削減					
上水使用量の削減	節水の徹底	・各蛇口の節水、ルール徹底	○	○	全従業員
	漏水点検の実施	・蛇口等の水漏れ点検	○	○	
4) 化学物質の管理					
化学物質の適正管理	適正使用量、保管料の把握を継続	・化学物質管理台帳の運用、定期点検、記録にて継続管理	○	○	管理担当者
		・施錠された保管庫による紛失、誤使用防止	○	○	
	環境負荷物質調査依頼への対応	・顧客からの適合要求に対しての迅速な情報提供	○	○	品質管理室
新しい化学物質使用の監視強化	・該当物質について代替えなど検討および正しい届出がされているかの確認	○	○		

対象項目	取組内容	取組内容詳細	取組の実績		実施担当
			1-6月	7-12月	
5) 環境に関する取組の向上					
現場の意識向上	以下のような情報を伝える掲示物を定期的に作成し各拠点に掲示することにより、環境意識の向上を促す ・事業活動における直近のエネルギー使用量・廃棄物量	<ul style="list-style-type: none"> ・全体ミーティングにて各拠点のエネルギー使用量・廃棄物量を周知する ・掲示物を定期的に作成し各拠点に掲示する 	△	△	環境管理責任者
不良の削減 IT技術の活用 環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止	業務の効率化(不良の削減, IT技術の活用)および顧客要求に従った環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止の徹底	・不良記録の徹底、再発防止処置の徹底	○	○	全従業員
		・間接部門の作業効率化 帳票システム化による属人化の解消	○	○	
		・環境負荷物質の製品含有の削減、禁止の徹底	○	○	

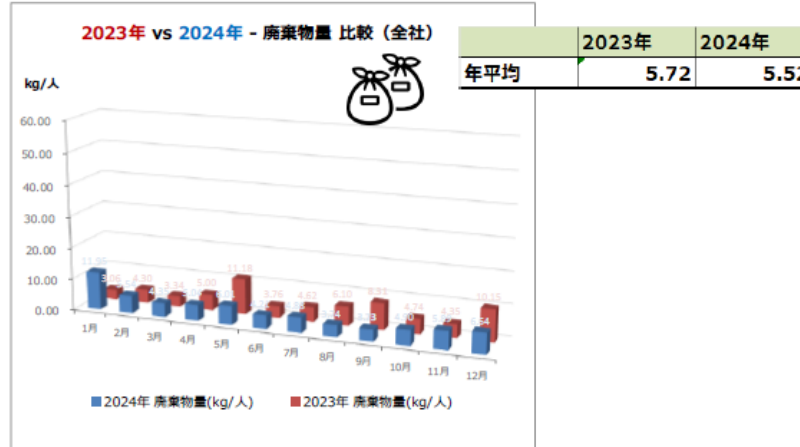
■取組結果と評価

対象項目	取組の実施状況	評価						
1) 環境負荷の低減 - 省エネルギーの推進								
CO2排出量の削減	<p>2023年 vs 2024年 - CO2排出量 比較 (全社)</p> <table border="1" data-bbox="1144 384 1435 459"> <thead> <tr> <th></th> <th>2023年</th> <th>2024年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年平均</td> <td>73.65</td> <td>58.06</td> </tr> </tbody> </table>		2023年	2024年	年平均	73.65	58.06	<p>評価：年間を通じて削減された</p> <p>影響要因：青梅工場の電気使用量の削減や、ガソリン、軽油の使用量の削減がCO2の削減につながったと思われる。</p> <p>次年度目標：現状を維持できるよう、取組を実施する。</p>
	2023年	2024年						
年平均	73.65	58.06						
CO2排出量の削減 - 電力使用量の削減	<p>2023年 vs 2024年 - 電力使用量 比較 (全社)</p> <table border="1" data-bbox="1144 826 1435 901"> <thead> <tr> <th></th> <th>2023年</th> <th>2024年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年平均</td> <td>150.46</td> <td>128.28</td> </tr> </tbody> </table>		2023年	2024年	年平均	150.46	128.28	<p>評価：年間を通じて削減された</p> <p>影響要因：社員の取組の成果により、削減できた。</p> <p>次年度目標：現状を維持できるよう、取組を実施する。</p>
	2023年	2024年						
年平均	150.46	128.28						

対象項目	取組の実施状況	評価						
CO2排出量の削減 - ガソリン使用量の削減	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <p style="text-align: center;">2023年 vs 2024年 - ガソリン使用量 比較 (全社)</p> <p style="text-align: center;">L/人</p> <p style="text-align: center;">■ 2024年 ガソリン使用量(L/人) ■ 2023年 ガソリン使用量(L/人)</p> </div> <div style="flex: 0.2; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2023年</th> <th>2024年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年平均</td> <td>3.40</td> <td>1.79</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>		2023年	2024年	年平均	3.40	1.79	<p>評価：年間を通じて削減された</p> <p>影響要因：公共交通機関を使用することが増えたため、ガソリンの使用量が削減できた。</p> <p>次年度目標：現状を維持できるよう、取組を実施する。</p>
	2023年	2024年						
年平均	3.40	1.79						
CO2排出量の削減 - 軽油使用量の削減	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <p style="text-align: center;">2023年 vs 2024年 - 軽油使用量 比較 (全社)</p> <p style="text-align: center;">L/人</p> <p style="text-align: center;">■ 2024年 軽油使用量(L/人) ■ 2023年 軽油使用量(L/人)</p> </div> <div style="flex: 0.2; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2023年</th> <th>2024年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年平均</td> <td>3.76</td> <td>2.79</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>		2023年	2024年	年平均	3.76	2.79	<p>評価：年間を通じて削減された</p> <p>影響要因：納品等に宅急便や定期チャーター便を使用することが増えたため、軽油の使用量の削減につながった。</p> <p>次年度目標：現状を維持できるよう、取組を実施する。</p>
	2023年	2024年						
年平均	3.76	2.79						

2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進

- 廃棄物の排出量 (t/人) の削減
- 廃棄物の適正管理



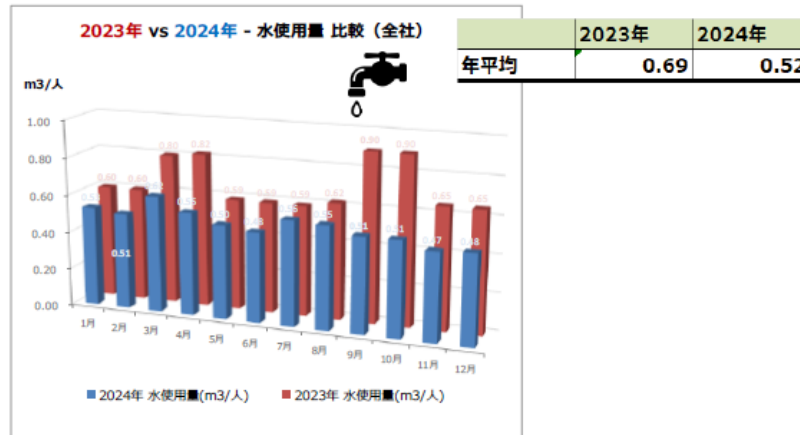
評価: **年間を通じて削減された**

影響要因: 各工場で廃棄物の削減を目標とし、取組を実施した結果、削減できた。

次年度目標: 現状を維持できるよう、取組を実施する。

3) 水使用量の削減

- 上水使用量 (m³/人) の削減



評価: **年間を通じて削減された**

影響要因: 日常的に節水についての取組がなされた結果、削減につながった。

次年度目標: 現状を維持できるよう、取組を実施する。

対象項目	取組の実施状況
4) 化学物質の適正管理	
<ul style="list-style-type: none"> - 化学物質の適正管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化学物質管理台帳の運用にて、適正使用量，保管量把握の継続 ・ 顧客からの環境負荷物質調査への対応 ・ 新しい化学物質使用の監視強化
5) 環境に関する取組の向上	
<ul style="list-style-type: none"> - 現場の意識向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物を作成し各拠点に掲示した
6) 製品およびサービスへの環境配慮	
<ul style="list-style-type: none"> - 不良の削減 - IT技術の活用 - 環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不良記録の徹底、再発防止処置の徹底 ・ 間接部門の作業効率化 ・ 帳票システム化による属人化の解消 ・ 環境負荷物質の製品含有の削減、禁止の徹底



(株)東興電機製作所
2024年度 環境教育・訓練計画および実績

計画作成日：2024年1月29日、実績記録日：2024年12月17日
 作成・記録者：馬場 桂（環境管理運営委員会）、承認者：川本 純子（環境管理責任者）

■教育・訓練計画 / 実績

種類	対象者	目的	内容	頻度	責任者	講師	2024年度スケジュール												備考
							01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	
一般教育	全従業員	一般的な環境に対する自覚を高める	環境方針、環境目標、環境活動計画の徹底を図る	隔月	環境管理責任者	環境管理責任者、環境運営委員会委員		○		○		○		○		○	○	全体会議で環境経営方針、目標について確認。 直近のエネルギー使用量・廃棄物量データを盛り込んだ掲示物の作成、掲示。	
	部門責任者	環境経営の戦略的重要性の自覚を高める	EA21の内容、環境問題の現状、環境経営の必要性	1回/年以上	同上	環境管理責任者、環境運営委員会委員		○					○					ISO・EMS統合化の取り組みの一環として、内部監査にて実施。 青梅：1/29-31、 柏：2/1実施	
	自転車利用者	最新の自転車交通ルールを理解し、自転車の安全な利用方法を心がけるようにする	『輪トレ』スマートフォンアプリを使用した「自転車安全利用促進オリエンテーション」	不定期	同上	外部講師									○			昨今、全国的に自転車交通事故が増加しているため実施。	
	全従業員	会社で勤務する上で必要な労働安全衛生に関する認識を高める	労働安全衛生を高めるための、必要な知識/情報を身に着ける	不定期	労働安全衛生管理責任者	労働安全衛生管理責任者										○	○	弊社で勤務する上では、労働安全衛生に気を付けることが必須となる（特に製造部門）。	



種類	対象者	目的	内容	頻度	責任者	講師	2024年度スケジュール												備考
							01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	
専門教育	全従業員	作業効率UP 不良削減	特殊工程教育	同上	同上	社内講師				○								製品およびサービスへの環境配慮の目標である不良削減へ向け、特殊工程教育の実施 4/10特殊工程教育（座学）	
	品質管理室員	品質向上	QMS教育	6回	同上	MAT医療機器事業部員						○	○	○	○	○	○	MAT主催による医療機器の品質管理の勉強会	
											●	●	●	●	●		●		
											6/26	7/24	8/28	9/25	10/30		12/18		

* 保管：環境管理運営委員会

8. 活動内容の紹介

内部コミュニケーション

工場および本社内の掲示物作成

集合ミーティングや掲示物にて、電気使用量、水使用量、廃棄物量のデータを定期的に社員へ向けて発信し、環境活動へのモチベーションの持・強化を図っています。

TOKO/DS
エコアクションへの取組

**“環境問題に
社員全員が関心を持ち、
会社として何ができるか考え、
具体的に行動していこう”**

2008年新社。この社員の皆様から
当社のエコ活動は始まりました。

その後、2009年4月に「エコアクション21」
(国産省が定める環境マネジメントシステムに関する自主規格・環境16年)
の認証を取得。2019年には、
認証・登録10年経過後として表彰されました。

現在も、エコアクション21のガイドラインに則り、
省エネ・省資源・廃棄物削減などの環境保全活動に
継続して取り組んでいます。

think of Earth

「環境活動」についての社員の心づかい

エネルギー使用量・廃棄物量 2021年10月集計データ

資料: 電機設備事務所では、エネルギー使用量 (CO2排出量、電気、ガソリン、軽油、水)・廃棄物量のデータ
月単位で集計・集約し、環境改善対策の取り組みに役立てています。

エネルギー使用量

青梅工場の電気使用量
(一人当たりの量、単位: kWh)

年度	2020年	2021年
1月~9月までの平均値	191.18	183.53

※2021年10月のデータは、10月1日現在の集計データです。

青梅工場の水道使用量
(一人当たりの量、単位: m³)

年度	2020年	2021年
1月~10月までの平均値	0.54	0.50

※2021年10月のデータは、10月1日現在の集計データです。

廃棄物量

資料: 電機設備事務所 青梅工場では、「廃棄物削減の推進及び再利用促進に関する条例」に
もとづき、廃棄物の減量・適正処理、再利用の促進に取り組んでいます。

青梅工場の一般廃棄物(可燃ごみ)
(一人当たりの量、単位: kg)

年度	2020年	2021年
1月~10月までの平均値	2.00	2.22

青梅工場の産業廃棄物
(一人当たりの量、単位: kg)

年度	2020年	2021年
1月~10月までの平均値	3.60	3.35

★2020年~2021年頃に比べ
青梅工場で大規模なレイアウト
変更を実施し、廃棄物の削減
に取り組んでいます。

★廃棄物の削減が人間的
量になっており、廃棄物の削減
に取り組んでいます。

★廃棄物の削減が人間的
量になっており、廃棄物の削減
に取り組んでいます。

皆さん一人一人の気持ち・行動が、環境保全につながります。引き続き、ご協力の程お願いします。
「エコアクション21」提出: 電機、社務

外部コミュニケーション

企業 Web サイトでの情報発信

企業 Web サイト内に、「エコアクション 21」への取り組みを紹介するページを設けて毎年レポートを掲載しているほか、「当社の環境負荷物質への対応について」というページでは、製造時に調達する部材や資材、その他物品に関する管理体制や、各国化学物質規制への対応状況について記載し、当社の取り組みを周知しています。

- 「人と地球にやさしい環境づくり」ページで環境経営レポートを公開

<https://www.tokods.com/tds/about-us/environment/>



- 「当社の環境負荷物質への対応について」ページでRoHS2) 指令への対応状況についても説明

<https://www.tokods.com/tds/about-us/environment/rohs2/>



自転車安全利用促進オリエンテーション

青梅工場において、自転車安全利用促進オリエンテーションを実施しましたので、報告します。

[青梅工場]

○2024年9月5日

昨今、全国的に自転車交通事故が増加していることをうけ、最新の自転車交通ルールを理解し、自転車の安全な利用方法を心がけるようにするために、自転車通勤者向けに、外部講師を招いて実施しました。スマートフォンで東京都自転車安全学習アプリ「輪トレ」を使用しての講習で、参加者の理解が深まりました。



9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の違反・訴訟等は、当社の環境関連法規制一覧表にてチェックした結果、過去および現在において一切ありませんでした。また、創業以来、関係機関等からの法規制違反の指摘、近隣からの指摘・苦情もありません。なお、下記法規制等が当社に該当いたします。

- 法律 -

環境基本法
循環型社会形成推進基本法
RoHS 指令
REACH 規制
廃棄物の処理及び清掃に関する法律
道路運送車両法
消防法
労働安全衛生法有機溶剤中毒予防規則
グリーン購入法
フロン排出抑制法
製造物責任（PL）法

- 条例 -

【東京都】
東京都健康と安全を確保する環境に関する条例
（東京都環境確保条例等）
【武蔵野市】
武蔵野市廃棄物の処理及び再利用促進に関する条例
【青梅市】
青梅市廃棄物の処理及び再利用促進に関する条例
【千葉県】
千葉県廃棄物の処理の適正化等に関する条例



10. 外部からの苦情などの受付状況及び対応結果

2024 年度、外部からの苦情はありませんでした。

11. 代表者による全体評価と見直しの結果

今年度は生産増加であったが、CO₂排出量、エネルギー使用量の削減を達成することができた。

環境に関する取組が社員へ浸透してきていることもあるが、

各工場ごとに、目標を設定し、達成に向け取り組んだことも大きな要因となっていると思われる。

次年度についても、今年度の環境経営に関する方針、目標・計画、実施体制について継続し、目標達成に向けて取組を進めていきたい。